

適性検査Ⅰ

注 意

- 1 問題は2ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は四十五分で、終わりは午前九時四十五分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、解答用紙だけを提出しなさい。
- 5 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 6 受検番号を解答用紙の決められたらんに記入しなさい。

東京都立桜修館中等教育学校

次の**文章A**・**文章B**を読んで、あとの**問題**に答えなさい。(＊印の付いている言葉には、文章のあとに〈言葉の説明〉があります。)

文章A

生活していく上で間にあうという数でいえば、三〇〇〇語あれば間にあう。だいたいは生きていられる。これが、いわゆる基本語です。では、三〇〇〇語知っていればいいのか。言語生活がよく営めるには、三〇〇〇では間にあわない。三万から五万の単語の約半分は、実のところは新聞でも一年に一度しか使われない。一生に一度しかお目にかからないかもしれない。しかし、その一年に一度、一生に一度しか出あわないような単語が、ここというときに適切に使えるかどうか。使えて初めて、^①よい言語生活が営めるのです。そこが大事です。語彙を七万も一〇万ももっていたって使用度数^①、あるいは一生で一度も使わないかもしれない。だからいらぬのではなくて、その一回のための単語を蓄えていること。例えば「味」についていえば、「味得する」という単語があります。これは確かに使用度数は少ない。今やもう、ほとんど使わなくなっているけれど、なにかの時に「それが味得できた」と使うことでピタッと決まることがある。「深い、かすかな味わいが分かった」では、文章の調子、文体としてためなときがある。文章を書くには、一度使った単語や言い回しを二度繰り返さないとという文章上の美意識がある。それに触れる。何か別の言い回しが必要になる。そのとき、その書き手がどれだけ語彙をもっているかが問題になる。^{*}類語辞典が役立つのはそういうときです。

(大野晋「日本語練習帳」による)

〈言葉の説明〉

類語辞典：意味の似ている言葉を集めた辞典。

文章B

私たちは言葉を使って、いろいろ感じたり、考えたりしている。言葉にならなければ、考えることが出来ない。考えるということは、「話す」とか「読む」とかと同じように、言語の行為である。最新の言語理論は、大まかにいえば、そのように説く。

したがって、ある種の言葉は、私たちの考えを決定してしまう。無批判に取り入れた言葉は、私たちの思考のパターンを決定してしまう。つまり、言葉によって縛られている。

言葉は、私たちの想像力を形成し、飛躍させる重要な働きをするけれど、思考の限界を作り出したり、思考をそこで停止させてしまったりすることもある。私たちは自分の中の言葉を、いつも柔らかく、いつも軽くさせておかなければならないと思う。いつでも頭の中をすぐに組み換えが出来ることは、^②知的であるための条件であるかと思う。

(金田一秀穂「金田一家、日本語百年のひみつ」による)

問題

〔問題1〕

文章A ① について、筆者の考えるよい言語生活とはどのようなことだとあなたは考えますか。**文章A** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題2〕

文章B ② について、筆者の考える知的であるための条件とはどのようなことだとあなたは考えますか。**文章B** 全体をふまえて、五十字以上、八十字以内で自分の言葉で分かりやすく書きましょう。

〔問題3〕

この二つの文章を読んで、あなたは「言葉」についてのどのようなことを考えましたか。あなたの考えを、いくつかの段落だんらくに分けて、四百字以上、五百字以内で分かりやすく書きましょう。

(書き方のきまり)

- 題名、名前は書かずに一行めから書き始めましょう。
- 書き出しや、段落をかえるときは、一マス空けて書きましょう。ただし、「問題1」と「問題2」については、一マスめから書き始め、行をかえてはいけません。
- 行をかえるのは段落をかえるときだけです。会話などを入れる場合は、行をかえてはいけません。
- 読点とつてん↓、や 句点↓。かぎ↓「などはそれぞれ一マスに書きましょう。ただし、句点とかぎ↓。」は、同じますに書きましょう。
- 読点や句点が行の一番上にきてしまうときは、前の行の一番最後の字といっしょに同じますに書きましょう。
- 書き出しや、段落をかえて空いたますも字数として数えます。
- 最後の段落の残りのますは、字数として数えません。
- 文章を直すときは、消しゴムでいいねいに消してから書き直しましょう。